

もえぎ

東九條舒弥さん書

4

Vol335

2020/4.15



医療法人社団萌気会

在宅療養支援診療所 (二日町)

在宅療養支援有床診療所 (浦佐)



上越市 高田城址公園 観桜会

2P…コロナと在宅ケア

3P…オアシス病棟さようなら

4P…漫画 黒岩卓夫一代記

5P…魚沼に、もっとワクワクを。

6P…入職後1年を振り返って

7P…わくわくランチ

8P…しょうたき萌気「たもんの郷」

内覧会開催のお知らせ

浦佐診療所臨時診療のお知らせ

*5月4日(月・祝) 8:30~12:00

午前だけの診療になりますので、ご注意下さい。

*5月5日(火)・6日(水)は休診となります。



4月26日(日)
びびやもん茶房
(10時~12時)



コロナと在宅ケア

― 防御に徹底する以外にない ―

医療法人社団萌気会 理事長 黒岩 卓夫

新型コロナウイルス流行によって、私たちは多くのことを学ばされた。

今まさにグローバル時代。あらゆる部門に国際的な連携や協業が深まっている。自動車一台でも数カ国の協力なしには作れない。

しかし極小の生物によって、この人類社会がズタズタに断ち切られている。

日本では国造りの理念として、地域共生社会を提起して久しいが、共生社会に平和の理念を忘れていた。今、今回のようなウイルス介入を考えていなかった。

私の同級生、養老孟司さんは「敵だから潰せという話になると、外出できず、

人とも会えず、経済は止まる。しかも、いくら人工的に安全な環境をつくっても、自然は多様で絶えず変化するから、頭で考えたシステムでなんとかしないと終わらないだろうが、いい。」（読売新聞2020・3・28朝刊）

しかし現実はどうもいかない。オーバーシュートを防ぐ、ピークを遅らせる、早めに治療する、など大問題になっている。

そして4月3日の政府の取扱い指針を見てみよう。

この病院中心のケアシステムは、病床の有効利用からであるが、入院・施設・自宅と3分類された。在宅療養の言葉に慣れている私たちにとって

“自宅療養”とはフレックスな感を覚えた。

そこで魚沼地方では在宅療養者、主として高齢者の場合は、自宅では多くは個室あるいは仕切られるスペースにいて、主たる介護者のウエイトが高い。外部からの訪問者も限られているところから、感染を防ぎやすいので、この利点を徹底することである。

日帰り施設も、施設と家族が緊密な連携をとれば、かなり厚い防衛システムは可能と思う。

在宅ケアシステムは、防御に知恵をしなければコロナに対抗できると思う。

ところで、コロナの陰で、21世紀人類の合言葉、密なコミュニケーション

ン、触れ合い、御近所の復活、さらに多職種によるチームケアまでもが危険となつてしまった。

さらに大正7年（1918年）第一次大戦の最中に世界を席巻した「スペインかぜ」は世界中で3000万人以上の死者を出したとされている。その発祥はアメリカで、アメリカ軍によってヨーロッパに持ち込まれた。この大流行は軍事上の情報隠蔽からとも言われている。スペインは中立国だったので、かぜの情報はスペインから自由に発信されたので、スペイン発祥のかぜと誤解されたとのことである。日本では人口5500万人、感染2300万人、死亡者約40万人。

そして養老孟司

さんは、「人間には都合がよくない新型コロナも多様性の一つ。登場してしまつたからには、共存するしかない。人間が生きていくためには、黒岩卓夫は「それはそうだが、まずワクチンや有効薬剤を開発してほしい」とぼやいている。



萌気園浦佐診療所2F

オアシス病棟さようなら —在宅継続支援のたった9床—

医療法人社団萌気会 理事長 黒岩 卓夫



浦佐診療所2Fの「オアシス病棟」は2013年6月3日からはじめ、2020年3月31日に閉じました。足掛け8年になります。13年14年は職員不足や制度運用に手落ちがあり、フルに稼働したのは2015年からです。

2015年から2018年の4年間は「オアシス病棟」が順調に動いた時期です。営業も黒字になっていました。2019年はすでに小規模多機能への転換が決まっていたこと、一方看護職も約1名増で運営していたため、気力・運営ともトーンの落ちた状態でした。

このことは営業にもはつきり表れ赤字になっています。

参考までに2015年～2018年の4年間は、合計で約1,500万円のプラス、19年は1年間で700万円のマイナスです。

しかし将来への大切な種はまかれたと思います。「オアシス病棟」「看取り退院」という言葉・理念が日常的に語られるようになりました。

小さいために、気楽に利用され、スタッフとも仲良く、両者とも温かい想い出をつくりました。スタッフにとってもオアシスだったことです。皆さんの努力に改めてお礼申し上げます。

2020年3月31日をもちまして、惜しまれつつも浦佐診療所2F病棟は一旦閉鎖いたしました。

皆様には大変お世話になりありがとうございました。

閉鎖にあたり感謝の気持ちを込め「お別れ会」という形をとりましたのですが、残念ながら全国的にも問題になっている新型コロナウイルスの影響により断念せざるを得ませんでした。しかし形式を変え小規模ながらデイルームにて入院患者様、黒岩理事長、黒岩巖志院長、そして診療所職員による心づくしの「お別れ会」を行いました。

数日前より病棟職員で飾り付けをし、当日は理事長よりケーキを、院長からはお菓子と飲み物を準備していただきました。オアシスといわれた病棟の歴史を振り返り、短い時間ではありましたが良い思い出作りができました。

6月1日より、入院病床1床と小規模多機能居宅介護施設「たもんの郷」がオープンします。ふたたび皆様のオアシスの場となれるよう頑張りますので、宜しくお願い致します。

萌気園浦佐診療所 病棟 副主任 看護助手 南雲 喜代子



I 期校（東大）の発表日とII 期校の受験が重なるようになり、説明もややこしくなりました。卓夫君の感激の瞬間も、友人からさりげなく伝えられ、拍子抜けでもありました。しかしそれが人生の大きな節目として、嬉しく受止めています。山猿ランプ少年が3年後には東大生になったとは!?

魚沼に、もっとワクワクを。

萌気100年プロジェクト

職員による新プロジェクト始動

100年続く萌気会に向けた、〈新しいプロジェクト〉を職員に募集をしたところ、総数23通もの応募がありました。「職員研修・交流」「職員家族交流」「地域交流・地域貢献」等、医療・介護分野からさらに広い視野で地域を活性化するような様々なプロジェクトが提案されました。

23通の応募の中から、2020年度は3つのプロジェクトを実施いたします。

- ① MOEGI
アスリートクラブ
- ② 同期会
- ③ 仕事参観

応募プロジェクトの紹介

- ・萌気会YouTubeチャンネル創設計画
- ・介護福祉士、社会福祉士等修学資金貸付制度
- ・うまい健康レストラン
- ・MOEGIフィットネス
- ・ほっと館 健康教室
- ・就労準備室
- ・災害ボランティア参加促進支援事業
- ・オーダーメイドプライベート旅行
- ・みんなで鬼ごっこ
- ・職員の二十歳を祝う
- ・職員研修制度の確立
- ・メンター制度
- ・先進介護システムの導入
- ・介護職マイスター制度
- ・理事長、院長とのランチ会
- ・普光寺座禅の会
- ・管理者向け経営セミナー
- ・カフェから地域を活性化させたい
～地域を活性化し隊 MOEGI～
- ・社内向けデス・カフェ
- ・介護業界に新しい風を



MOEGIアスリートクラブ

萌気園通所リハビリセンター浦佐 理学療法士 山田 春樹

魚沼にもっとワクワクを！

萌気をもっと熱く！ということで、『MOEGIアスリートクラブ』が始動します！最近はコロナウイルスの話題で持ちきりですが、スポーツはみんなを熱くし、きっと感動を与えてくれるものだと思います。

運動が好き、スポーツ観戦が好き、野球、サッカー、マラソン、筋トレ、登山後の一杯が好きなど携わり方は人それぞれですが、スポーツ好きはみんなアスリートです。アスリートの輪・和を萌気に、そしてこの魚沼地域に広げましょう！

将来的には地域の大会やその上位大会で表彰されるくらい、本気で運動に取り組める環境や人財が集まってくれる組織や法人になってほしいという願望があります！

そして、萌気のこのプロジェクトから魚沼地域を盛り上げましょう！

以前のもえぎ新聞2月号で書いた、萌気実業団チームが誕生する日が遠くないかもしれません！

今後の『MOEGIアスリートクラブ』にぜひ注目してください。期待が大きければ大きいほど燃える人がここにいることをお忘れなく！！



昨年の新人新入社員オリエンテーション時

入職後1年を振り返って

萌気園大和通所介護「地蔵の湯」

佐藤泰規 小幡桃香



去年の4月に萌気会に入職し「地蔵の湯」で働き始めてから1年が経ちました。本当にあっという間の1年でしたが、いろいろなことを学び、体験することのできた1年でした。

以前から介護の職場に触れる機会は少しあったのですが、介護の現場で本格的に働いたことがなかったため、今振り返ってみると働き始めた当初は不安になることが多かったように思えます。まず、日々の業務の内容を覚えるだけで大変でした。何をどの順番でやれば良いのか自分がしなければならぬことは何なのかを先輩の職員に聞いてその都度メモを取り、同じ間違いを繰り返さないように気を付けながら少しずつ仕事を覚えていきました。また、最初の頃は利用者さんの名前と顔がなかなか一致せず、利用者さん一人ひとりの特徴や個性を覚えるのにとっても苦労しました。

このように不安だったこと苦労したことは多かったのですが、それ以上に楽しかったこと嬉しかったことも多くありました。その中の一つは、業務内容を覚えていくにつれ任される仕事も多くなり、できることも多くなったことです。今では利用者さんの特徴も覚え、その人に合わせた介助を行えるようになりました。他には、私自身のコミュニケーション能力が上がったことです。私は「地蔵の湯」に来るまで他者とコミュニケーションを取ることがそこまで得意ではありませんでした。利用者さんと何気ないことを話したり、職員同士で連携して業務をしたりする中で自然と自分からコミュニケーションを取るようになっていきました。これは「地蔵の湯」で職員間のコミュニケーション能力を鍛える一環として行われていたテーブルゲームに参加していたことも良かったのだと思います。

私はこの夏、介護福祉士の資格試験に必要となる実務者研修を受けます。そこでより専門的な介護の技術や今の自分に足りない知識を学び、今後の業務に活かしていきたいと考えています。2年目も萌気会の一員として常に新しいことに挑戦し、変化を恐れず進んでいけたらと思います。

佐藤 泰規

入職して1年が経過し、この1年でたくさんの経験をしてきました。

介護経験が全くなかった私を一から指導して下さい、少しずつではありますが介護技術が身に付いてきたところです。

来たばかりの頃は何をしていいのかわからず、介護技術もないので、何をしても皆さんに迷惑をかけてしまい、とても悔しい思いをしました。2カ月が経つと、少しずつ利用者さんの名前を覚えレクリエーションなどの役割を任せられるようになりました。初めて利用者さん全員の名前を言えた時、凄く嬉しかった事を今でも覚えています。

そして、私が1年で最も苦労した事は入浴介助です。皮膚の状態観察や軟膏の塗布等、一人ひとりの体調に合わせて入浴して頂いたり、周りを見ながら動かなくてははいけません。視野の狭い私にはできないと思っていましたが、湯船に入る際の手順や介助の仕方など細かく指導して頂き、今では周りを見ながら行動できるようになりました。

少しずつではありますが、出来る事が増えて行き任される仕事が多くなるにつれ、この仕事にやりがいを感じるようになりました。なにより、利用者さんからの「ありがとう」や「頑張っているね」などの言葉をかけて頂ける事がとても嬉しいです。こんな私に、毎日元気をくれる利用者さんに感謝しています。

こうして、周りの方々の指導や支えがありこんなにも成長する事ができました。そして、すごく人見知りでした話す事が苦手だった私が、介護の仕事に携わり利用者さんと関わっていくうちに自分に自信が持てるようになり、話す事が好きになりました。

最後に、この1年で介護をする事や、利用者さんと関わる事の楽しさを知る事ができました。

四月に来たばかりの頃は「地蔵の湯」でやっていけるのだろうか不安でいっぱいでしたが、いざ行ってみると職員の方や利用者さんが優しく出迎えて下さり、今も安心して仕事をする事が出来ています。今、私にとっての「地蔵の湯」はとても安心する場所です。

これから、介護福祉士の資格取得に向けて勉強を始めて行き、立派な介護福祉士になれるよう毎日頑張っていきたいと思います。

小幡 桃香



わくわくランチ

萌気園通所リハビリセンター浦佐

「揚げ物の匂い？」

「いや何か煮ている匂いだてえ」

リハビリセンターでは、2階厨房から漂ってくるおいしい匂いを嗅ぎながら運動を進めます。

利用者さんも職員も楽しみにしている月一回のわくわくランチ。

お昼の時間になるまで何が出るか分かりません。



3月16日のメニューは
～アジア大陸料理～

- ① ビビンバ風混ぜご飯 (韓国)
- ② 油淋鶏 (中国)
- ③ さっぱり春雨サラダ (ベトナム)
- ④ 具沢山スープ (中国)
- ⑤ 切り干し大根のコールスロー (日本)
- ⑥ 桃のデザート

「さっぱりしているのに、ボリュームがある」

「一日分の栄養は摂った、大満足!!」 おいしい笑顔を見ることができました。

平澤 金城様(ふきのとう利用者)



「ふきのとう」を利用してどうですか？

年を重ねて初めての利用ですがよい所です。

若いころは何をされていましたか？

傷痍軍人の指導員として沼田で2年、横浜で15～6年働いていました。横浜は性に合わなかったので東京に行き商売を始めました。カップラーメンが飛ぶように売れる時代でした。家を借りるのも大変な時代でしたが、一軒家を建て結婚しました。夫婦で年金を貰うようになったので、奥さんの実家の近くに家を建て帰ってきました。

趣味は何ですか？

お金を貯める事かな～(笑) 株や国債なども買っていたよ…

いつも紳士的で笑顔が素敵な平澤さん!(^^)!

これからもお元気で「ふきのとう」の生活を楽しんで下さい。

<ふきのとう職員>

2020年6月1日

萌気園浦佐診療所2F病棟は、浦佐地区**初**の 小規模多機能型居宅介護

しょうたき萌気「たもんの郷」に 生まれ変わります

内覧会開催

5/23(土)・5/24(日) 午後1時～5時

【お問い合わせ先】 しょうたき萌気「たもんの郷」 開設準備室

室長:若井 実栄治 TEL:025-778-0311

新規スタッフ募集! 介護職員TEL:025-781-6155(上村)

曼陀羅華での 楽しい日々感謝を込めて

沙羅の花から曼陀羅華へ異動となり7年間。所長を任せられ3年。4月より五十沢の「さくりの郷」へ異動になりました。

皆様との楽しい思い出を握りしめ五十沢に行きます。(涙)

多くの思い出が出来た事は、ご家族の方々のご理解ご協力のお陰です。ありがとうございました。



桑原宮子

は、玄関上のレトロチックで大きな看板と、古民家のような懐かしい室内空間です。まるでテーマパークに足を踏み入れた感覚に襲われます。そしてそこには元氣な高齢者の笑顔が広がっています。寝たきりも認知症もない「健康テーマパーク」を目指していきます。どうかよろしくお願いします。



萌気園二日町診療所 曼陀羅華 ― 新所長 新たな挑戦 ―

4月より曼陀羅華の所長になりました川部伊佐夫です。曼陀羅華の一日は、ハイエースの送迎から始まります。利用者は、入浴、リハビリ、昼食、そして午後からレクとカラオケで楽しい時間を過ごしていただいています。何よりの自慢



編集後記

萌気園多機能介護センター「リゾートあぜ地」 飯塚 晶枝

萌気園浦佐診療所の病棟を改装し6月より小規模多機能居宅介護になります。事業所名も「たもんの郷」に決まりました。地域の方々のなじみとなり、多くの方々のお役に立つ事ができ、利用される方々にとって居心地よく過ごしていただけたら、と思っています。

さて、今年は雪が少なかったことにより、例年に比べ早くに桜の開花宣言を聞き、お花見を楽しむことができるかと思えば、世界中を脅威で襲う新型コロナ

ウイルスにより不要、不急の外出は控えるよう言われているためイベントの自粛や中止。自分自身が身を守るためには仕方がない事でありながらも残念な思いも強く…。物が不足し不便になっている事も多くなり、いつまで続くのかと不安も多いと思いますが、早く落ち着いてくれることを願いながら、当たり前になっている今の生活に感謝をしていきたいと思う今日この頃です。